

2016 年度夏季海外研修報告書

University of Alberta English Language and Cultural Seminar

獣医学群獣医学類 2 年 21561017 天野真衣

【目次】

- ①はじめに
- ②ELS(English Language School)について
- ③Activity について
- ④ホームステイについて
- ⑤まとめ

【①はじめに】

私は 2016 年 8 月 26 日から 9 月 22 日の 28 日間、カナダアルバータ州エドモントン市にあるアルバータ大学に短期留学しました。そして、この 28 日間は私にとってかけがえのないものとなりました。留学を終えた今、まず初めに私を支えて下さった多くの方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。アルバータ協会、酪農学園大学とアルバータ大学の皆様、ホストファミリー、共に留学した 6 人の仲間、家族、その他私の留学に関わった全ての皆様、本当にありがとうございました。この報告書がお世話になった方々に今回の留学の成果をお知らせすると共に、次年度以降この研修に参加する学生の助けになればと思います。



エドモントンの街並みと街のシンボルであるムタート植物園

【②ELS(English Language School)について】

月曜日から金曜日の午前 8 時から 12 時 (途中 30 分間の休憩あり)に ELS(English Language School)を受講しました。

ELS を通じて、特に日本では学ぶことは難しいリスニングとスピーキングの訓練ができたように感じます。リスニングでは自己流ではありますが「推測する」という術を身に着けました。相手の話を聞きながらその話の流れや結末を推測することで、相槌を打ったり質問したりし易くなりました

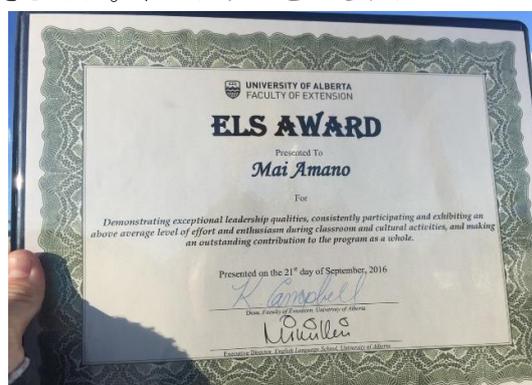


ELS のクラスの集合写真

し（その推測が当たっていても間違っている）漫然と相手の話を聞く様な状態になることを防ぐこともできました。また、自分の持つ単語量や熟語量がリスニング力に大きく影響するのだということも知りました。聞いたことも見たこともない単語や熟語を聞き取って理解するのは不可能だということです。知っている単語や熟語の数はライティングだけでなくあらゆる分野に関連するのだと分かりました。スピーキングではその日に覚えた表現や言い回しをすぐに使うことができ、留学以前に比べて言いたいことを表現できるようになりました。しかし、相手が外国人の私に分かりやすいよう気を遣って話してくれていることも分かったので、まだまだ精進しなければならないとも思いました。

また、外国人のクラスメートから学ぶことはとても多かったです。一つ目は授業態度です。カナダに移住して復学したという人も多く、彼らの勤勉さには頭が下がりました。外国ではディスカッションや先生が投げかけた話題にどんどん発言するのが一般的で、彼らの積極的な姿勢が印象的でした。彼らは日本人に比べて文法や発音は苦手な傾向にある様でしたが、なまりや間違いを気にせず発言したり先生に質問したりする姿勢は見習いたいと思いました。二つ目は彼らの国についてです。私のクラスにはベネズエラ、ブラジル、韓国、ベトナム、コソボなどが出身地の生徒がおり、彼らの国について詳しく聞くことができました。それによって南米の国政や経済状況など、自分で興味を持って彼らに質問したり個人的に調べたりすることができ、知識を増やすことができました。特に興味深かったのはコソボという国についてです。コソボは1996年から1999年にわたるコソボ紛争でアルバニアから独立し、現在は東ヨーロッパの内陸にあります。しかし、アルバニアとコソボは同じ言語、同じ文化であり、同じ国だと思っているとコソボ出身の友人は言っていました。彼女に出会わなければコソボという国を知ることも東ヨーロッパの歴史に興味を持って調べることもなかったでしょう。私の見聞を広めてくれた彼らに感謝しています。この英語のクラスで私はかけがえのない友人たちを得ることができました。私がクラスを去る日にプレゼントをくれた友人もおり、抱き合って悲しみました。彼らとは今でも近況を報告し合うなど連絡を取り合っています。ELSは私に新しい出会いと新しい世界を与えてくれた場所でした。

また、最終日に ELS AWARD という賞を頂きました。僭越ながら、これは ELS を受講した生徒の中で特に「よく学び、よく笑った人」に贈られる賞だそうです。私の留学の成果が目に見られる形で認められたことを嬉しく思います。



ELS AWARD の表彰状。記念品としてアルバータ大学公式のパーカーも頂い

【③Activity について】

ELS の授業後の午後は全 10 回の Activity がありました。また、9 月 16 日から 9 月 18 日の 3 日間を利用して Canadian Rockies Trip がありました。授業後の Activity は Legislature Tour や West Edmonton Mall などエドモントンの名所を回るプログラムから、Edmonton Humane Society や Edmonton Valley Zoo など酪農学園大学の専門性に合わせて作られたものなど幅広く、とても勉強になりました。

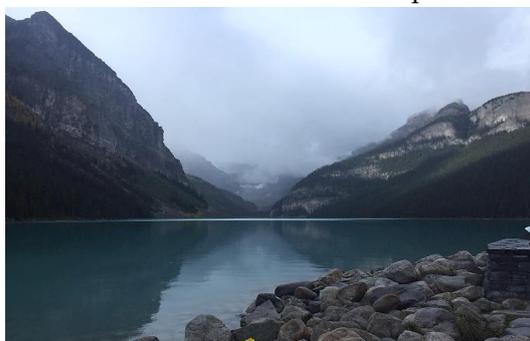
私が特に印象に残った Activity を 3 つ紹介したいと思います。1 つ目は Edmonton Humane Society です。ここは引っ越しや飼い主による虐待など、何らかの理由で住む家を失った伴侶動物の面倒を見て新しい家を探すという組織です。ここでは年間 1 万匹以上の伴侶動物（イヌ、ネコ、ウサギ、爬虫類など）を引き受けています。このように非常に大きな組織であるにも関わらず、十分な飼育スペースの確保、毎日の清掃や野外での散歩が行き届いており素晴らしいと思いました。また、それぞれの動物の性格まで記載された細かい情報を公開しての里親探しにも感銘を受けました。北米は動物への倫理観が日本よりも進んでいると感じましたし、日本の保健所



Fort Edmonton Park を象徴する 20 世紀初頭の映画館

についても改めて調べてみようと思いました。2 つ目は Fort Edmonton Park です。ここは敷地内をエドモントンの年代別にエリアを分け、時代をタイムスリップしながらエドモントンの歴史を学ぶことができる場所です。ガイドの方の話を聞くことはリスニングの練習にもなりましたし、エドモントンやカナダの歴史について知ることができ、非常に興味深かったです。ヨーロッパから新大陸を開拓するためにカナダに渡り、寒い気候に耐えながら独自の文化を築いた移民たちの歴史は、本州から北海道に渡った屯田兵の歴史と重なるものがありました。3 つ目は Canadian Rockies Trip です。カナダの雄大で美しい自然を全身で浴びた 3 日間でした。言葉では言い尽くせない美しさでしたので掲載しました写真をご覧ください。

また、Activity では多くの日本人留学生との出会いがありました。和歌山大学や明治薬科大学、千葉大学や安田女子大学からの留学生です。外国での日本人との出会いは予想外でしたが、あらゆる学部の学生から大学で学



Canadian Rockies の中で最も有名なルイス湖

んでいることやこの留学の抱負などを聞くことができ、良い刺激になりました。また、大学ごとに Activity の内容が違うので、私が体験していない Activity の話を聞くのも面白かったです。例えば、和歌山大学の観光学部の方はエドモントンの観光産業に焦点を当てて観察していましたし、看護学部や薬学部の方はエドモントンの医療に特化した Activity を受けていました。今後私が関わることが少ないであろう分野（観光、人の医療、法学、教育など）に進む学生の話聞く

ことができたのは、単科大学の学生である私にはとても貴重な経験でした。逆に、獣医学部という分野に全く関わりのない人は多く、彼らは獣医師の仕事について知らない、又は誤解をしている場合もあるのだということも分かりました。彼らと話すことで獣医師のことを以前より知ってもらえたことも嬉しかったです。



Canadian Rockies のミネワカ湖

【④ホームステイについて】

ELS と Activity に加え、ホームステイもまた、外国の文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ良い機会となりました。私のホームステイ先の Bains 家はホストファザーとホストマザーに加え、三人の男の子と犬のいる家庭で、毎日のように親戚とその子供たちが家に訪れるとても賑やかな空間でした。親戚との結びつきが強く、また、家の中のいたるところに飾られた”Live Laugh Love”の標語通り、笑いの絶えない温かい家庭でした。そして、浴室や寝室がいくつもあるようなとても大きい家で、カナダの国土の広さを最初に実感した場所でもあります。場所はエドモントン市内のサマーサイドという大きな新築の家が立ち並ぶ地域で、エドモントンが成長のさなかにある都市だということも感じました。ホームステイ生活では日常的に使われる英語を肌で感じるとともに、カナダの文化に触れることができました。平日は Activity から帰ると子供たちが私を待ち構えていてフィ



Bains 家の子供たちとその従兄弟たち、同じ家にホームステイした留学生たちとの集合写真

ールドホッケーやバスケットボールで遊び夕飯を食べてから宿題をこなす、といった日々でした。また、アイスホッケーの観戦や地域のお祭りに出かけたり、家の車庫でフリーマーケットを開いたり、カナダの人々の生活をリアルに体験することができました。私は特に子供たちと話したり遊んだりする機会が多く、子供たちは私の英語が理解できないと容赦なく”What?”と聞き返してくるので、自分の英語のどこが間違っているのか知ることができました。

また、自分のホストファミリー以外の家庭との交流もありました。酪農学園大学から一緒に留学した間所さん、関根さん、有井さんのそれぞれのホストファミリーともお会いする機会に恵まれました。

間所さんのホストマザーである **Sonia** さんには 3 回お会いする機会に恵まれ、カナダの伝統料理をご馳走してもらったり、コンサートやレストランに連れて行ってもらったりしました。彼女はとても聡明な女性で、彼女の言っていた「相手が何か言葉を発した時、日本人はその人に同意するがカナダ人はその意見に同意する」という言葉はとても印象的でした。例えば”Isn’t she tired?”（彼女は疲れていないのですか？）と相手が言ったとします。彼女が疲れていない場合、日本人は相手に同意する意味では **(Yes)** と答えますが、英語ではこれは間違いで、カナダ人はいいえ **(No)** と言います。他にも、英語は日本語に比べ論理的に議論するのに向いた言語であることなど、彼女の話は日本人のものの考え方、ひいては私の考え方の本質について考えさせられるものでした。

関根さんのホストファミリーである **Koyich** 家の方々とも何回かお会いする機会がありました。関根さんのホストファザーである **Alex** さんと 2 人の子供たちには教会に連れて行ってもらいました。教会では礼拝に加え **Class** というものがあり、私は関根さんと **Ladies Class** というものに参加して、女性の生き方についての講義を聞きました。私は中学高校とカトリック系のミッションスクールに通っていたので、何回も礼拝に出席したことがありましたが、カナダでの礼拝は日本とは違う点も多くあり興味深かったです。関根さんのホストマザーの

Karen さんには **Corn Maze** というトウモロコシ畑に作られた巨大な迷路に連れて行ってもらったり、**Faculty Social**（留学生の歓迎会）後のダンスパーティーで一緒に踊ったりしました。彼女はアルバータ大学の職員だったので大学内でも何度か見かけることもありました。**Koyich** 家の方々には本当に陽気で気さくで親切な方で、人間的に見習いたいと思う点が多かったです。

有井さんのホストファミリーである **Cowper-Smith** 家には有井さんの誕生日パーティーの際に



Karen さんとダンス

訪問し、カナダの伝統料理を頂きました。誕生日会には多くの人が集まり、食事の後はボードゲームやダイスなどカナダで一般的なゲームで盛り上がりました。

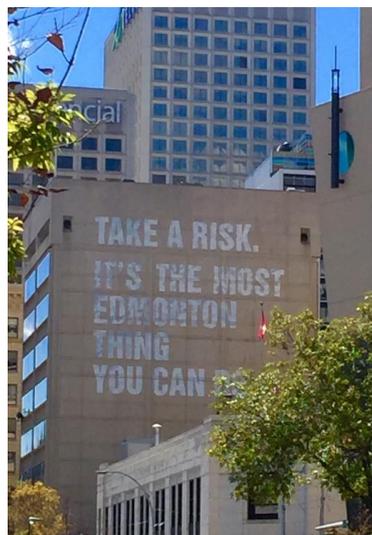
多くの家庭を訪問しましたが、どの家庭も自分達らしく家の内装を工夫し、自分達の好きなアート作品を置いているのが印象的でした。また、どなたもフレンドリーで親切な方ばかりで、私の留学は彼らの力無しではあり得なかったと、感謝の念でいっぱいです。

【⑤まとめ】

ここで、私の留学前の抱負を再確認したいと思います。1つ目は英語力の向上です。海外での授業や生活を通じて英語を話す力とコミュニケーション力を身に着けたいと考えていました。2つ目は異文化との交流です。異国の人々と触れ合うことで彼らの考え方を知り、自らの見分を広めたいと考えていました。私はこれらを達成し、また抱負を遥かに上回る経験ができました。

私がこの留学で得た力は3つあります。1つ目は「英語力」です。大学でもホームステイ先でも毎日英語に触れることで、特にリスニング力とスピーキング力は留学以前に比べて成長したと思います。2つ目は「比較して考える力」です。「郷に入っては郷に従え」という姿勢で現地での生活を楽しむことができた一方で、何か異国に関する事象を考えるにあたっては、常に自分の基盤である日本と比較することでより深く吸収することができました。これによって基盤となる日本への関心や知識の重要性も感じたので、今後は国際情勢だけでなく日本にも目を向けていきたいと思います。3つ目は「自分で解決する力」です。今回の留学は私にとって初めての留学でしたし、他の留學生の話を知ると、私のホストファミリーは他の家庭に比べて放任だった様で、毎日分からないことだらけでした。しかしそれがきっかけで、自分で調べよう周りの人に聞いてみようという気持ちになり、能動的に活動することができました。

留学を終えた今、私が最も強く感じるのは「人生は短い」ということです。私はこの留学で沢山の素敵な出会いをしました。この留学をしなければ100%会うことはなかった人たちです。私の人生であと何回このような出会いができるか分かりません。だからこそ私は今までの出会いを大切にしたいと思います。そして、今この瞬間にも世界中で私が知らない場所で知らない人たちが生きています。これからまた今回の留学のような機会を頂けるようなことがあったら、自分から積極的に行動し、知らない世界に飛び込んでいきたいです。



街中の壁に格言。エドモントンでしか学べないことが沢山あった。